

Tuuli

2009年11月16日発行

先日英語クラブでは秋から連想する言葉を出し合いました。さすが食欲の秋！美味しい食べ物の名前が並びました。そのうちの一つ、柿はヨーロッパでは“Kaki”と日本語そのままの名前で売られているそうです。梨も同じく英語になった日本語の一つです。日本の果物のおいしさは世界が認めるところということでしょうか？他にも、収穫の秋、名月、青い空、赤とんぼなどが挙がりました。さて皆様の秋のイメージはいかがでしょうか？

第2回特養ミニボランティア交流会の御報告

去る11月2日、いつも特養で活動してくださっているボランティアさんと職員とで交流会を持ちました。ボランティアさんからは“利用者のできることを伸ばし、生きがいに繋げるケアはできないか？”という提案があったり、“5階フロアでは針仕事のときウエストポーチを身につけて安全に気をつけている。”という工夫の紹介があったり、職員からは“ボランティアさんに安心してチームケアの一員となっていただく為に仕組みを考えたい。”“ボランティアさんへの働きかけをフロア全体で徹底させたい。”などの意見が出ました。

次回は頂いたご意見に対し現場でどのように生かしているかの報告ができるよう取り組んでいきます。お集まりいただき誠に有難うございました。

今後の予定

- ◆配食ボランティア交流会 日時：12月7日（月）14：00～16：00 お弁当の試食と交流会
- ◆ボランティア交流全体会 日時：1月21日（木）10：00～15：00 講演会と交流会
- ◆第3回特養ミニボランティア交流会 年度最終回として3月を予定しています
詳しいことが決まり次第、またお知らせいたします。

ボランティアさんの募集

お餅つき

日にち：12月4日（金曜日）

時間：10:00～11:45

- ①餅のちぎり手
 - ②餅の運び手
 - ③特養利用者の送迎・誘導
- 各5名ずつ



陶芸のお手伝い

場所：デイケアセンター
活動日：火曜・水曜・木曜
時間：10:00～11:00
陶芸作品作りのお手伝いをお願いします。（通年）



スオミミュージックステージ “秋のシャンソンコンサート”

利用者の送迎

日にち：11月29日（日曜日）

時間：13:30～15:30

特養の利用者を、スオミまで送迎をお願いします。



忘れ物のお知らせ

ボランティアコーナーで2点の忘れ物をお預かりしています。第1回特養ミニボランティア交流会で机の下にあった折り畳み式の黒の日傘と、バザーの時、オレンジエプロンの中にはいていた婦人物の腕時計です。お心当たりのある方はどうぞボランティアコーナーまで！





いよいよ最終回。“夢見る老後は夢のある老後”をお届けします。是非、感想をお寄せ下さい。

泣いても笑ってもこれが最終便。私の独り言にお付き合いいただき感謝すると同時に楽しみいただけましたでしょうか？

前はレアさんの裕福な暮らしをご紹介したけれど、フィンランドの老後にもいろいろある。2年前にフィンランドのパキラホームから至誠ホームへ交換研修でやってきたトゥーラに会うためにパキラホームを訪れた。トゥーラの仕事場の施設は‘さくら’という。彼女は10名ほどの利用者を担当している。外への通路は鍵がかけられている。緊急時は職員の持っているリモコンのベルが鳴り、すぐに利用者のもとに駆けつけてすばやく対処できる。一人で立ち上がれない人はトイレに座れるように機械で釣り上げる。日本のように抱きかかえて体を動かすのは、スキップがあってよいのだが介護者の腰を痛める。どちらも痛し痒しである。

ここは静かで時間がゆっくり流れていく。でもちょっと気になったことがある。何かが足りない。なんだろう？わかった！それは笑いがほとんどない。一番大切な笑いが無い！「笑いは百薬の長」「笑う門には福来る」反面、至誠ホームには笑いがあり、活気が満ち溢れている。どこかで何時も声が聞こえるということは、利用者に安心感を与えるに違いない。声の温かみを感じているはずだ。幸せってそう言う所からくるのね。

見渡したがボランティアはこの施設内にはいなかった。働いている人々は、皆お金を支払われている。それだけしっかり責任を持って、プロの精神で、親身になり、面倒を見ることになる。私はその道の専門家（介護士）ではないのでこのたびのパキラ訪問はただ見学させていただいたにすぎない。その短い時間を見た光景は、国の老後対策のもと、施設入居を選択した高齢者は衣食住がそろって、与えられた事・物を納得して受け入れる生活に慣れているようだった。

最後に私の夢見る老後は何であるかを自分自身に問うてみた。フィンランドの都会のお年寄りの豊かな生活も素晴らしいが何かが足りない。私の憧れは、生きがいのある第二の人生。職場での第一線を離れて別世界に挑むこと。宮仕えにさよならし、人に命令されずに自由に生きたい。でも平和ボケだけは避けて、人との交流を大切にしたいと思っている。自分で培った技術や特技を駆使し、ボランティアで人の役に立つことをしたい。人に喜ばれることは、とりもなおさず自分も嬉しい。心が満たされて満足である。お金、物が豊富である事は素晴らしいが、それだけでなく、平凡ではあるが、歳を取ってもある程度の刺激と何かを成し遂げる達成感が欲しい。生きがいを兼ね備えたボランティアを私は歓迎している。まだまだ頑張れる。自信をあたえられるその機会とその人々に心から感謝したい。

国の政策の違い、経済の状況の変化、厳しい歴史の道なり、違った文化、ライフスタイルの相違等々、違った世界のフィンランドと日本の両国の狭間でみたこの夏の経験を通して、私の夢見る老後は、夢のある老後。病気もすっ飛ばすくらいに元気、挑戦、奮闘、前進あるのみ。今の私は、少しずつ夢のある老後に近づきつつあるように確信する。与えられるものを期待するばかりではなく、自分自身で好きなように作り出し、それによって、喜びを感じる機会をより多く持つこと。すなわち自分にあった第二の人生を作り上げること。それを求めて、今もなお現在進行形なり。いい人生だったといえるように。

そんな訳で、サンデー毎日の汚名返上、ディリー毎日やってます。そうよ、私、忙しいお婆さんやってます。 それでは、よろこばしよっと！！！！ (阿川 聡子)

ボランティアルームの備品



ボランティアルームに必要なものはとの問いかけに早速“姿見(鏡)”という声をお寄せ頂きました。どなたかのお宅で不要の鏡はないでしょうか？もしありましたら是非ボランティアコーナーまでお声かけください。また他にも必要なものがありましたらお知らせください。ご一緒に快適な場所にしていきましょう。

発行

社会福祉法人 至誠学舎立川 至誠ホーム 統括事務局企画調整 ボランティア担当 寺澤・齋藤

連絡先

〒190-0022 東京都立川市錦町6-28-15 Tel:042-527-0035 Fax:042-527-2646

E-mail: shisei-volunteer@shisei.or.jp HP: <http://www.shisei.or.jp>